

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



# 学校だより

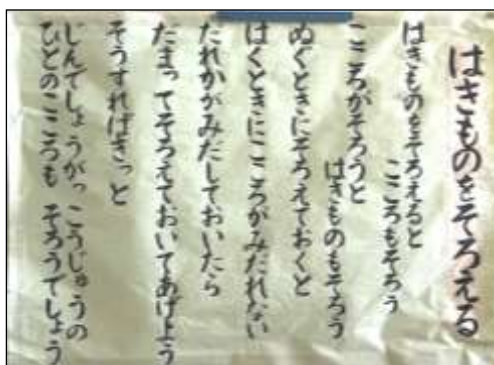
No. 2 さいたま市立神田小学校  
令和6年 4月30日発行 Tel (853) 4377  
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

## 学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を  
たくましく生きる神田の子  
・かしこく・たくましく・あたたかく

## 感性を磨く

校長 中村 誠



2階の階段踊り場には、「はきものをそろえる」という詩が掲示されています。その掲示物の様子から、長く掲示されているものだと思われ、「はきものをそろえる」という言葉が、神田小学校で昔から大事にされてきたのだなと感じました。

この「はきものをそろえる」という詩は、私が初任者の頃、初任者指導の先生から「子どもたちが、はきものをそろえる習慣を身につけると学級が落ち着く」と指導を受けていました。言われた通り実践すると、たしかに学級が落ち着いてくる様子が見られた記憶があり、それから「はきものをそろえる」という言葉は、自分の中でも大切な言葉となりました。

では、はきものをそろえるとなぜ学級が落ち着くのでしょうか。私は、大きく2つの感性が磨かれるからだと思います。1つ目は、はきものをそろえることで「一旦立ち止まり、考える感性」が磨かれると考えます。はきものをそろえることは、決して難しい行為ではありません。簡単ともいえるその行為を、学校に入る時や家に帰ってきたときに行うことで、自分自身の思考が立ち止まり、考える余裕が生まれます。その余裕をもつことで、回りを見渡して様々なことに気づく感性が磨かれるのではないのでしょうか。2つ目は、「周りへの気遣いをする感性」が磨かれると考えます。詩の後半には「だれかがみだしておいたら/だまってそろえておいてあげよう」とあります。私は、この部分を子どもたちに見せて「他の人のはきものがそろっていなかったらそっとなおしてあげようね」とよく指導していました。子どもというのは、他の人がやっていないと、どうしても「あなたやってないよ!」などと強く責めてしまいがちです。しかし、責めるのではなく「そっとなおしてあげる」という行為をすることで、他の様々な場面でも周りの人に気遣いができる感性が磨かれてくるのではないのでしょうか。

学校は、知識や思考力などを身に付けるだけでなく、これから社会の中で生きるための感性を磨く場でもあると考えています。感性は磨き続けないと鈍っていきます。そのため「はきものをそろえる」という一生続けられる行為を通して子どもたちの感性を磨いているのだと思っています。私たちは、子どもたちの感性を磨き続けるとともに、自分自身の感性も磨き続けていきます。

明日から6連休です。事故防止に努めると共に、お子様と一緒に様々なことにチャレンジし、小さな変化を感じてみませんか。5月も教職員一同、『すべては神田の子の「希望をはぐくむために」』を合言葉に頑張ります。

保護者・地域の皆様には、今後とも御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。